2015年度第２四半期
決算説明

2015年11月16日

鬼怒川ゴム工業株式会社

KINUGAWA

1. 2015年度第2四半期決算の状況

2. 主な活動と取組み状況

3. 2015年度の業績予想

2015年度 第2四半期 決算のポイント

■ 前年同期比で増収増益

■ 売上高

2015年度　第2四半期の連結売上高は増収
地域別にはアジア・米州で増収、日本は減収

米州　；日系カーメーカー向けの売上拡大
アジア；中国での売上拡大（特に欧米系・民族系向け）
日本　；主要得意先の国内生産台数の減少

■ 利益

原材料の現地調達化や生産性向上、生産立上げロスの改善等により収益が改善

Kinugawa　Strictly Confidentiall

2015年度 第2四半期決算概要

■ 増収増益（売上；106%, 経常利益；108%　対前年同期）

（単位：百万円）

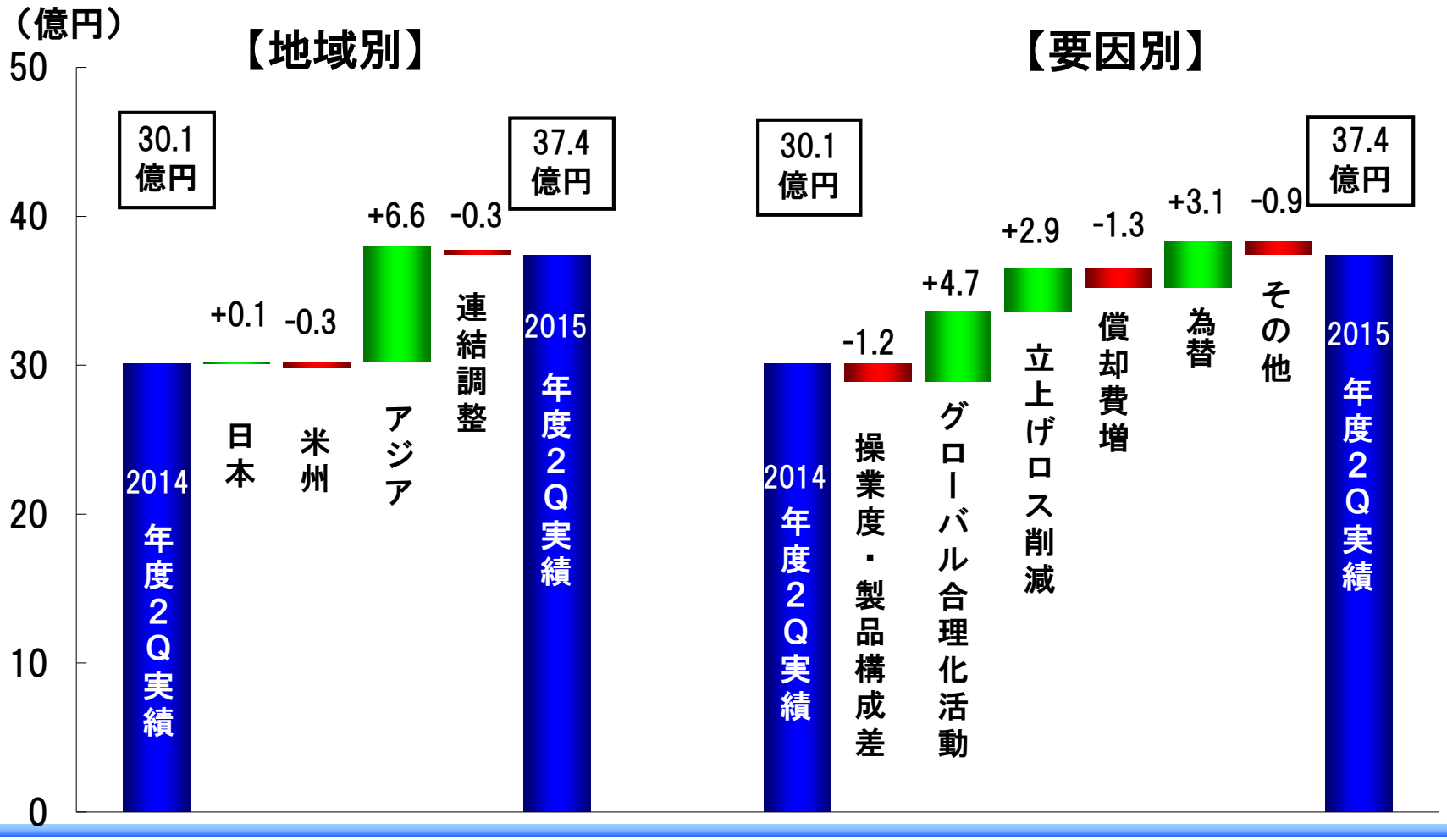
	2014年度 第2四半期	2015年度 第2四半期	増減率
売上高	36,494	38,665	(106%)
営業利益	3,007	3,740	(124%)
率	8.2%	9.7%	
経常利益	3,156	3,407	(108%)
率	8.6%	8.8%	
当期純利益	1,902	2,092	(110%)
総資産	71,371	73,758	(103%)
自己資本	36,745	38,826	(106%)
率	51.4%	52.6%	
借入金残高	11,652	11,606	
DEレシオ	0.3	0.3	

（注）前期の貸借対照表科目は前年3月末、（　）内は前期との増減比率

Kinugawa　Strictly Confidentiall

営業利益変動要因（地域別・要因別）

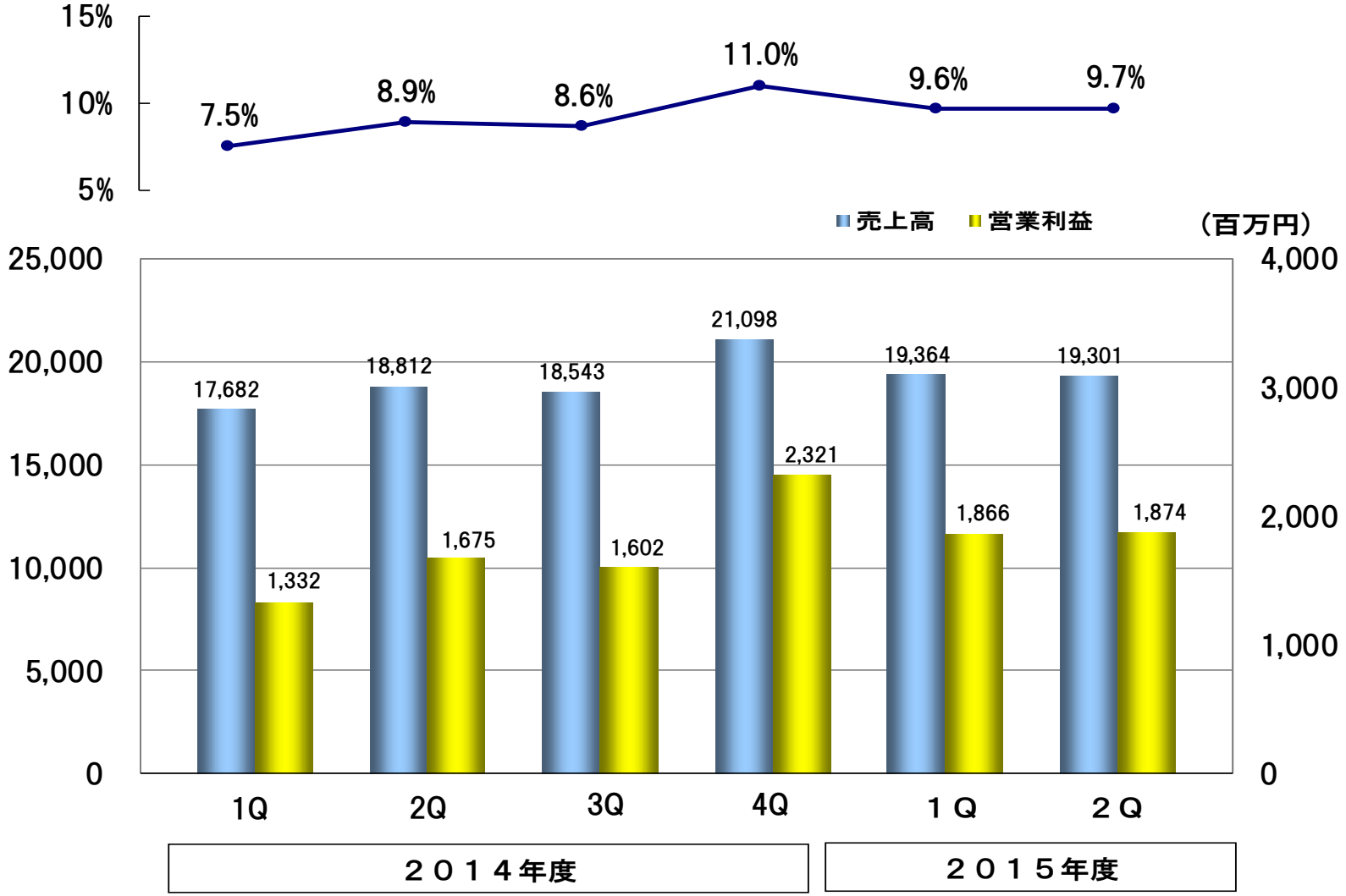
- アジアで大幅に利益増加、日本は微増・米州は微減。
- グローバルで合理化活動や立上げロス削減により増益。



Kinugawa　Strictly Confidentiall

四半期業績の推移

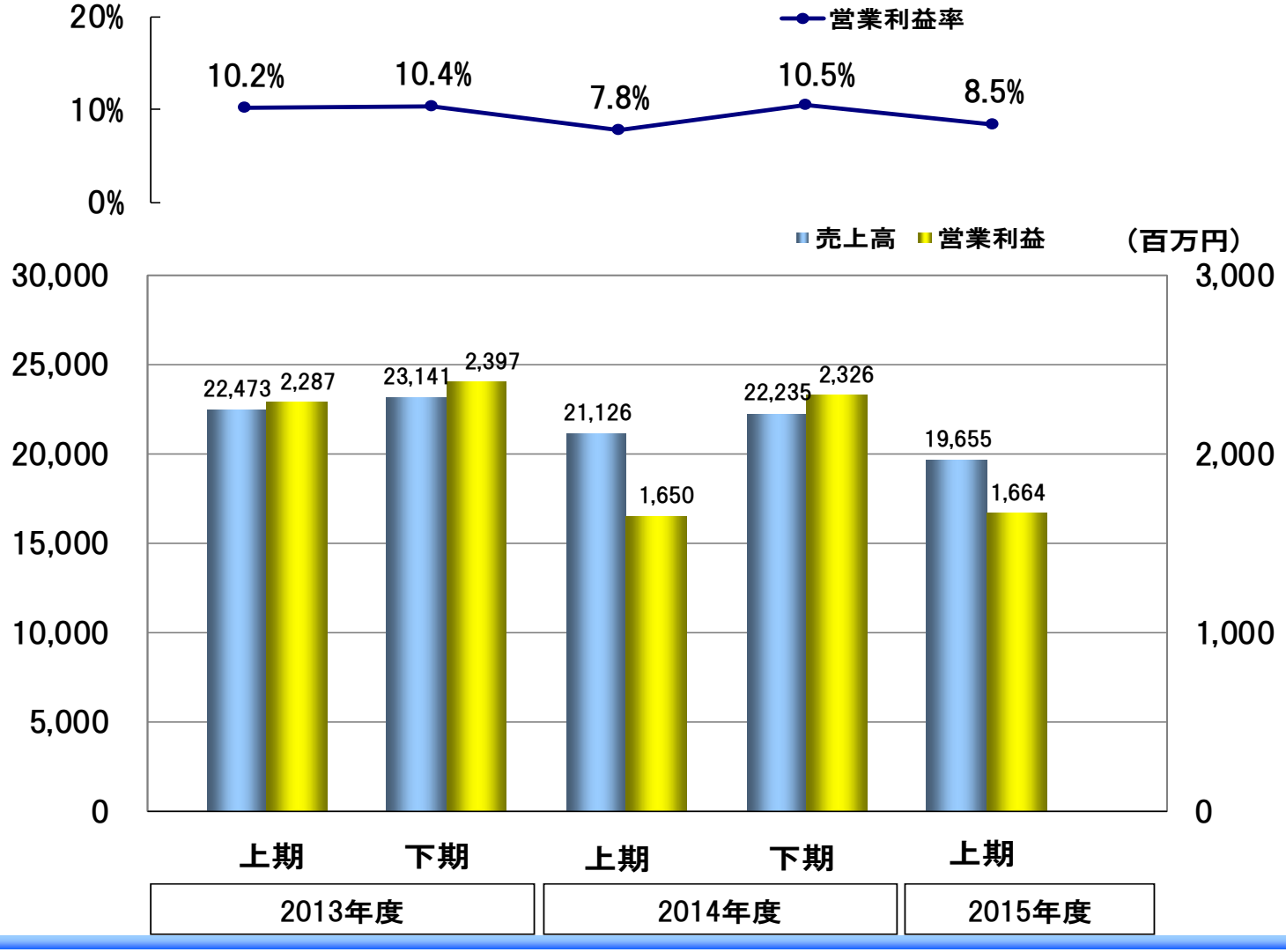
■ グローバル合理化活動により利益率は着実に向上



KINUGAWA

地区別売上高・営業利益（日本）

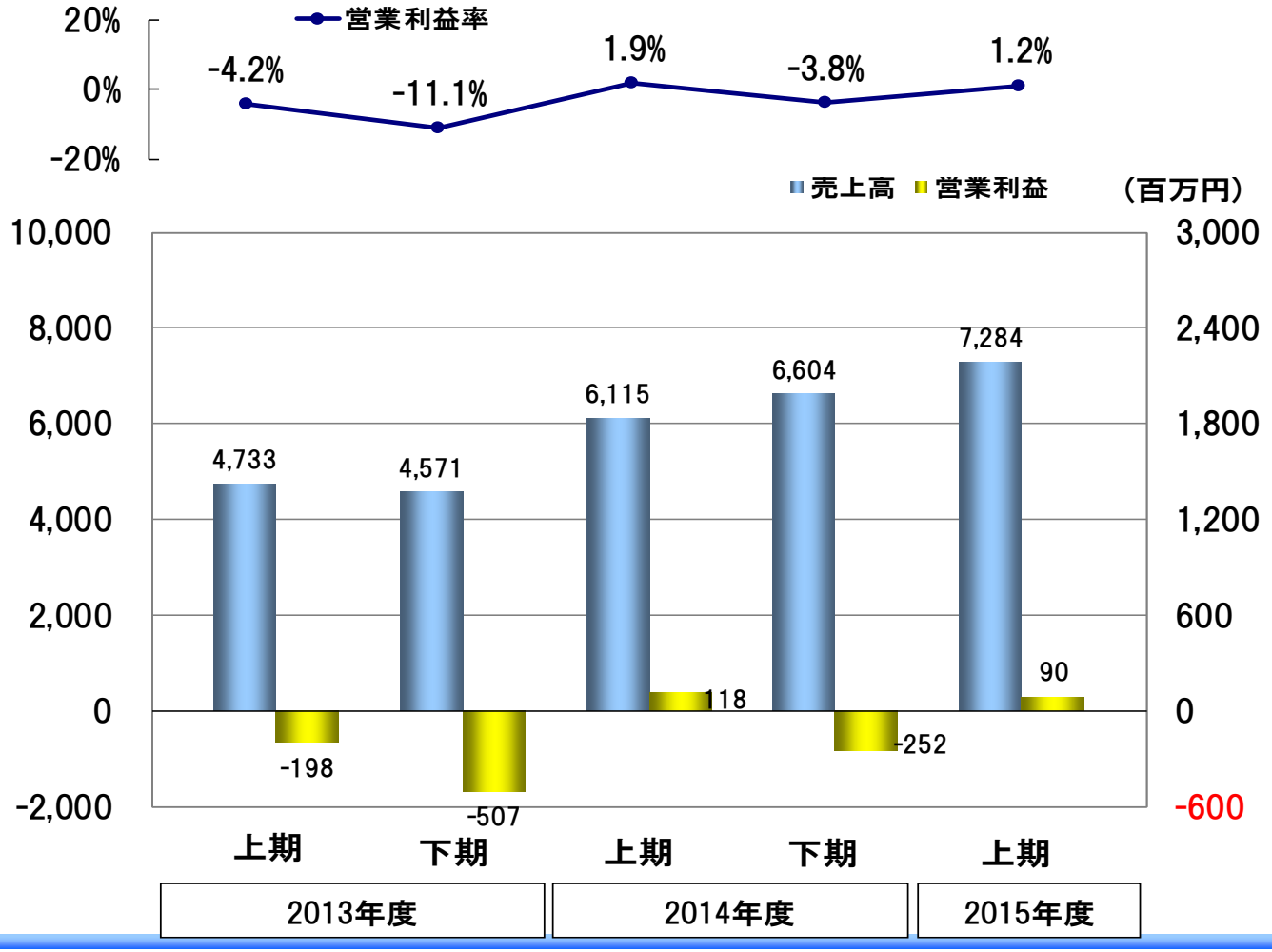
■ 主要得意先の国内生産減少、建機用製品の受注減で売上減少



KINUGAWA

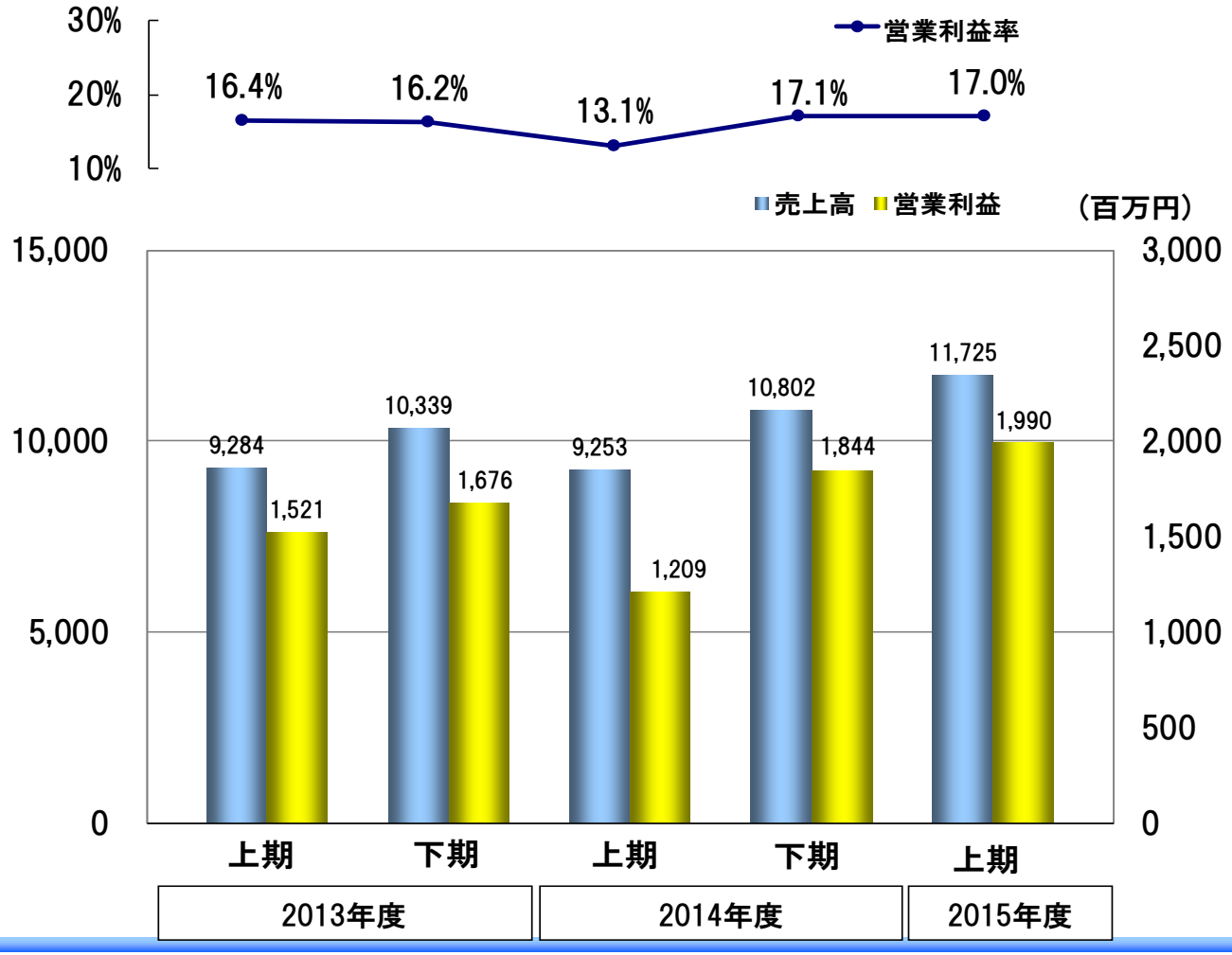
地区別売上高・営業利益（米州）

■ 日系カーメーカー向け売上増加、生産性向上等の合理化活動により収益率は改善。



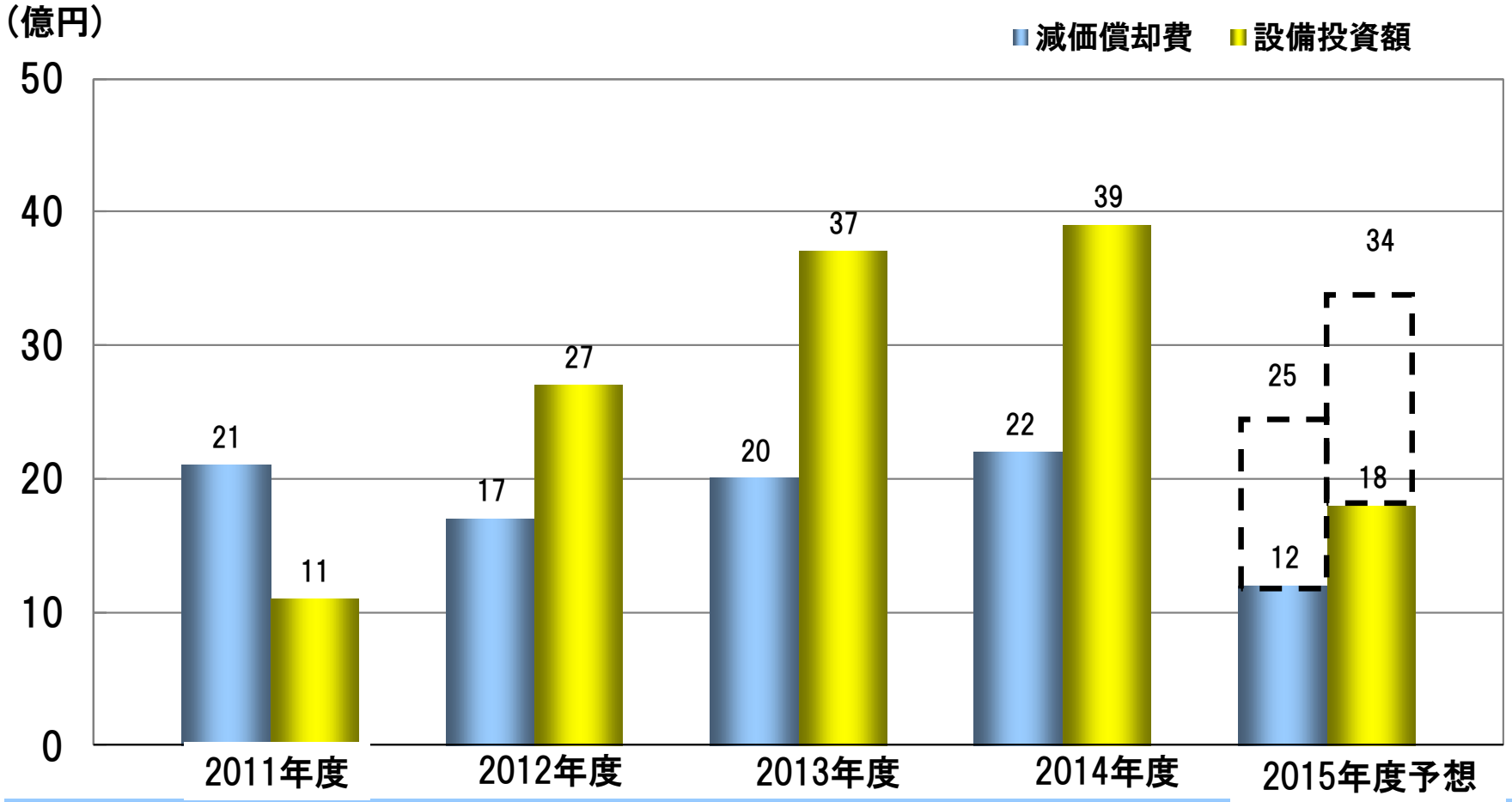
地区別売上高・営業利益（アジア）

■ 中国での主要得意先の生産増加や、新規受注等により売上増収。新規拠点の収益改善効果もあって利益拡大。



減価償却費・設備投資推移

■ 車体シール製品の能力増強及び防振・ホース製品のグローバル展開等により、海外拠点を中心に34億円の投資を予定



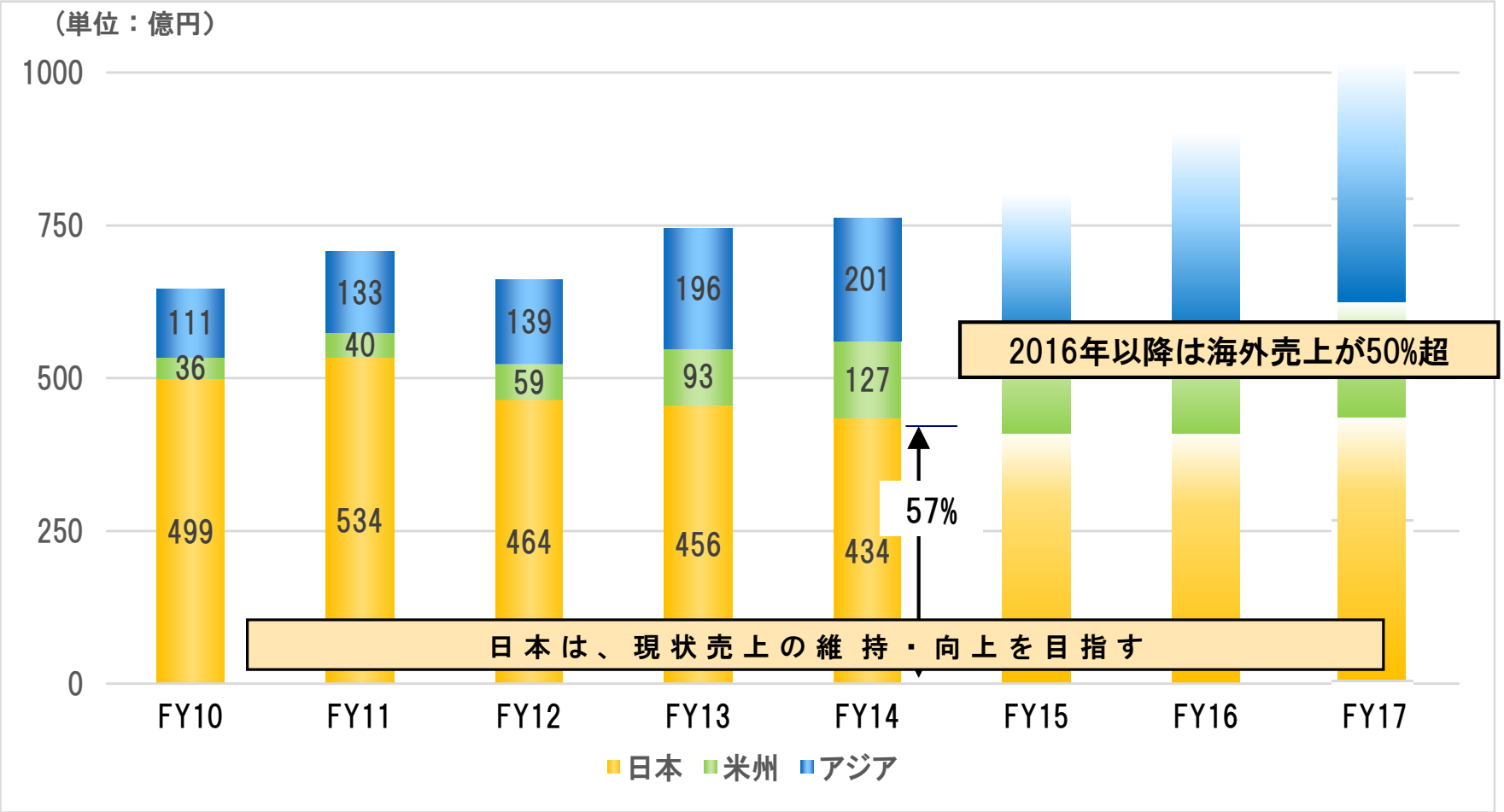
1. 2015年度第2四半期決算の状況

2. 主な活動と取組み状況

3. 2015年度の業績予想

売上向上に向けた取り組み

既存の顧客の売上拡大に加え、新規お客様への拡販を行い、米州・アジアを中心に更なる売上高拡大を図っていく。



収益向上に向けた今後の取り組み（拠点別）

■ 各拠点が自らの課題・目標を自主自立で解決できる拠点運営を目指す

キヌガワロシア

・押出素材の
　現地化推進
・物流コストミニマム化

鬼怒川（鄭州）

・押出工程一貫生産化
・材料調達コスト削減

キヌガワ郡山・防振

・量の変動に強いフレキシブルな現場造り

・人員配置ロス削減
・品質ロス削減
（押出し品証制度導入）

TEPRO

キヌガワブラジル

・新車立上げロス削減
・調達の現地化推進

・材料の現地化推進
・現地スタッフ
　による改善活動

キヌガワインド

鬼怒川（蕪湖）

・徹底的なコスト削減
（材料歩留改善、他）
・レイアウト変更による
　スペースの有効活用

キヌガワメキシコ

・総廃却率の低減
・化成処理の現地化
　原材料現地化の推進

キヌガワインドネシア

・調達の現地化推進
・総廃却率の低減

キヌガワタイランド

・材料廃却ロスの削減
・デリバリー管理改善
・押出し素材の安定化
・品質意識向上

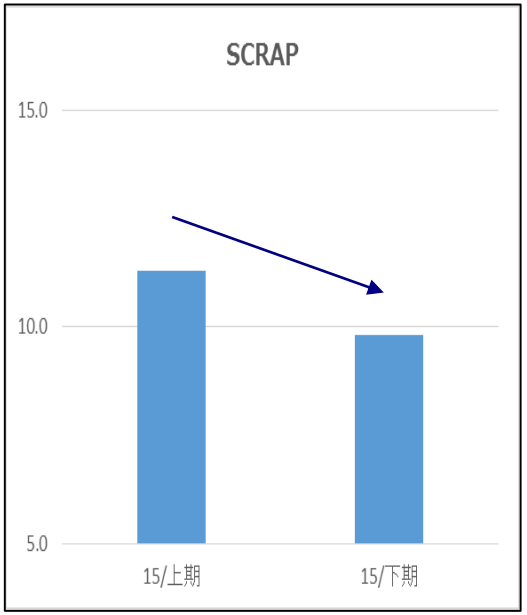
KINUGAWA

米州地区の下期売上、収益見通し

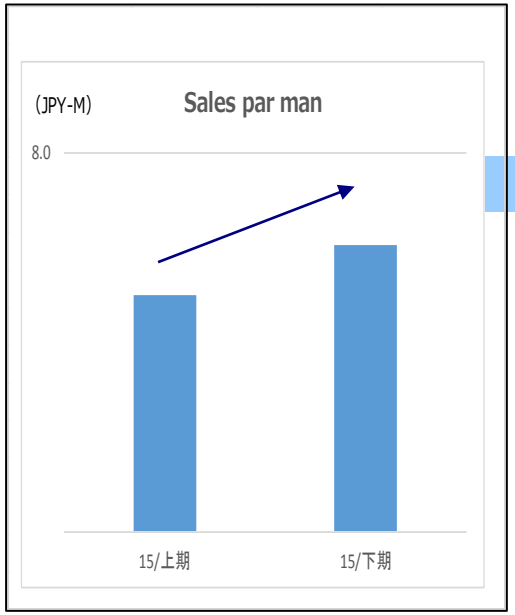
- 現地スタッフ主導の主要KPI改善活動により、2015年下期は更に収益改善の見通し

収益回復に向けた活動状況

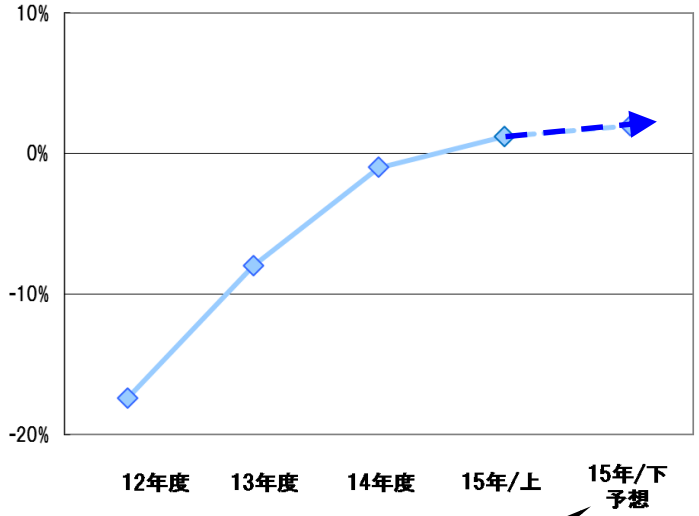
1. 廃却率推移



2. 1人当り売上高



2015年度収益見通し



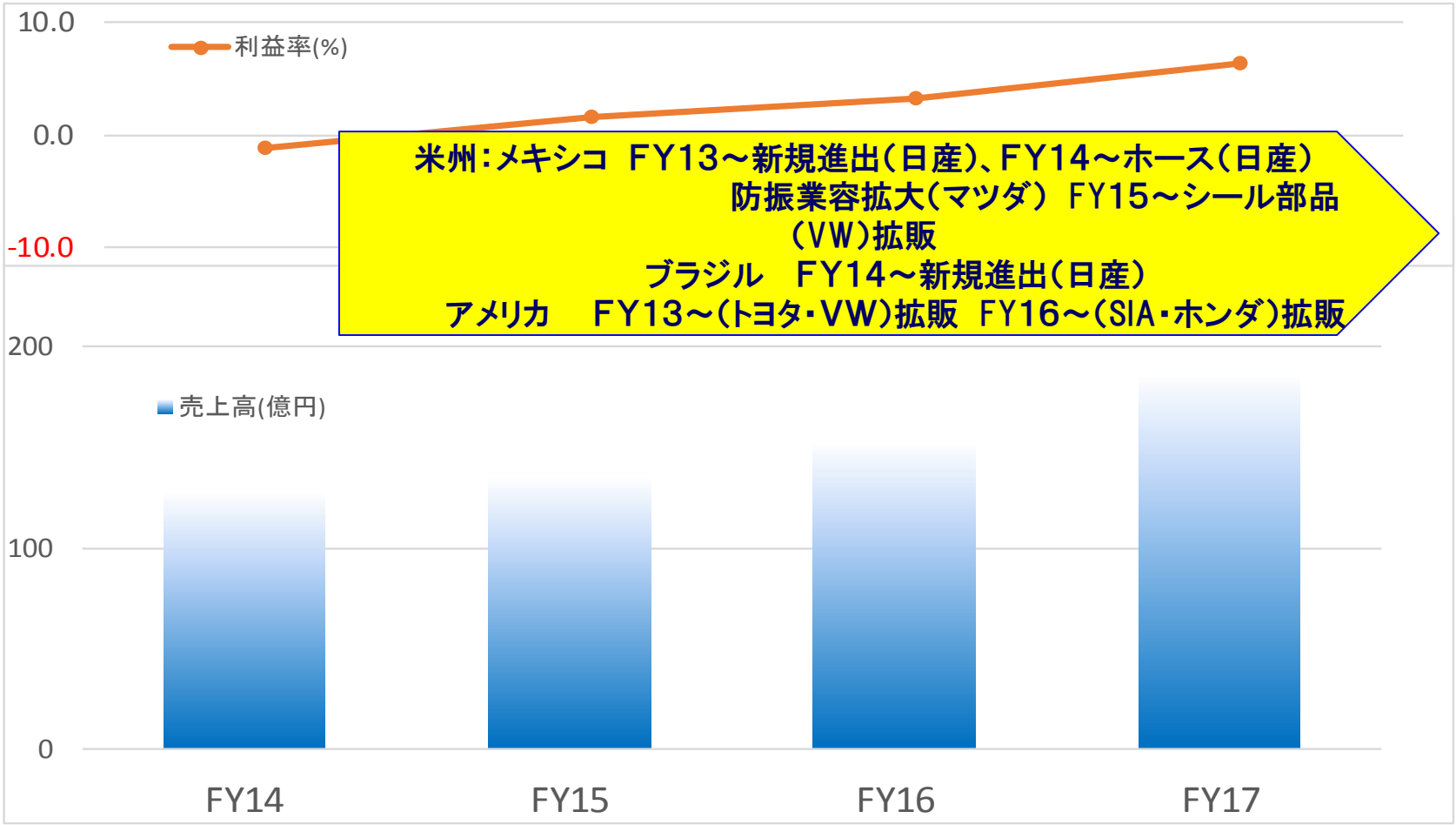
アメリカ(TEPRO),
メキシコ(KGM) ともに
収益改善中

参照：メキシコ（KGM）での改善状況

KINUGAWA

米州地区の更なる拡大に向けて

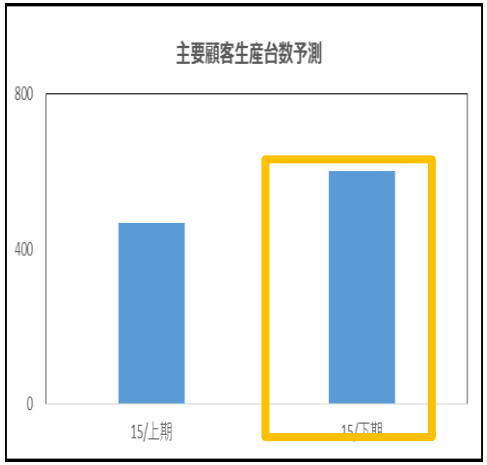
- 防振・型物・ホース事業や新規顧客の拡販により、今後も売上増加(2017年は2014年比で約1.5倍)、収益率向上

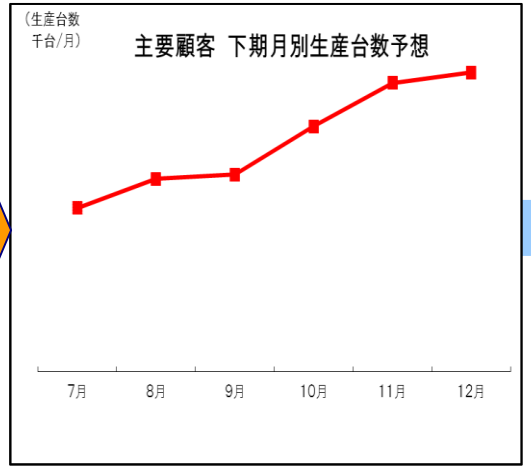


アジア地区の下期売上、収益見通し

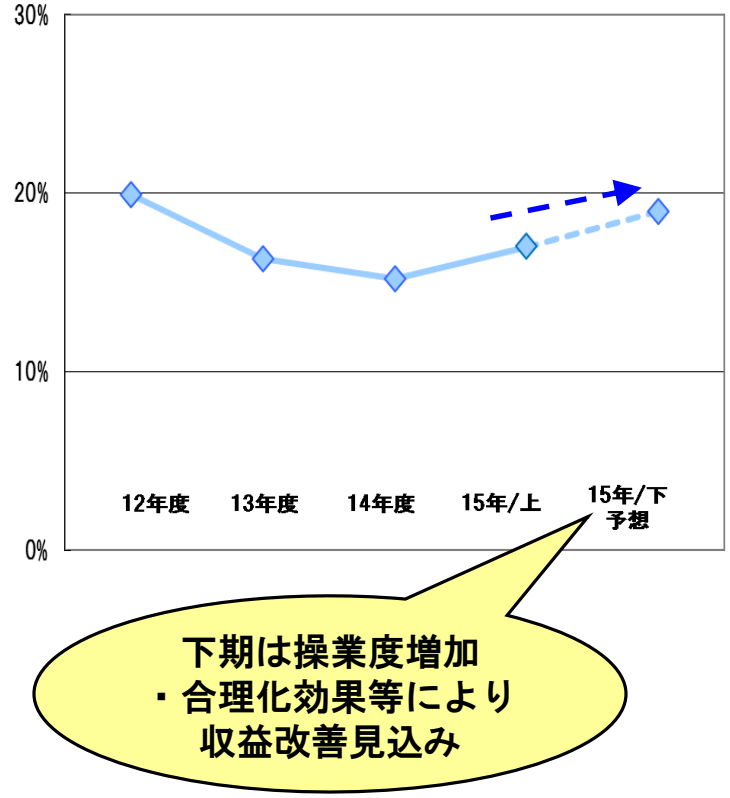
- 下期は中国の主要顧客の生産台数増加や新車の立上げにより操業度増加、収益は更に改善する見通し

2015年度　生産台数見通し

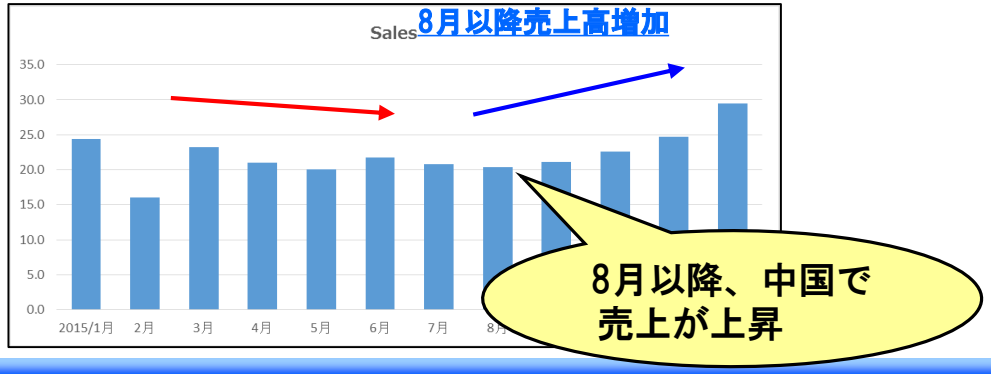




2015年度収益見通し



2015年度　売上高見通し

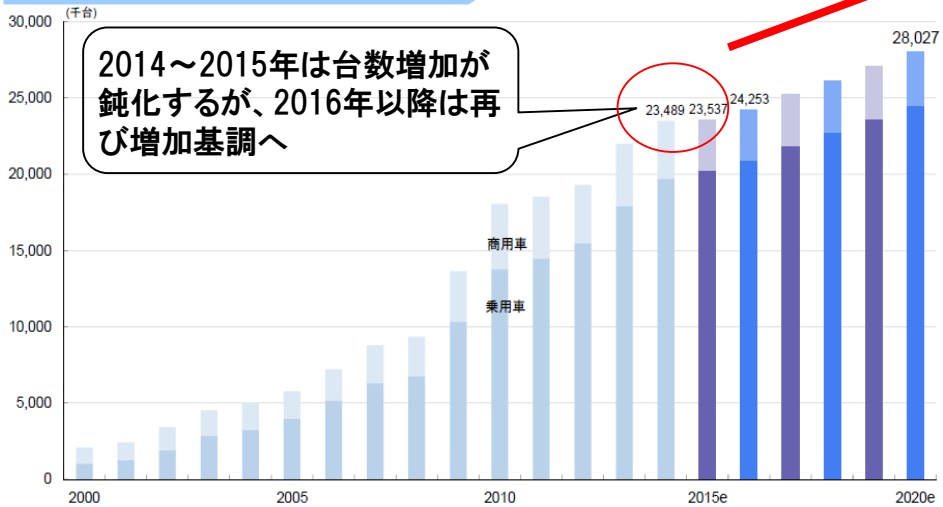


KINUGAWA

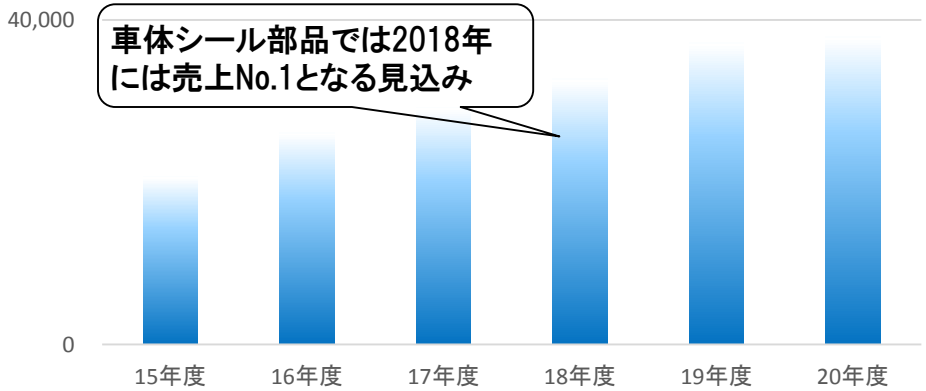
中国地区の更なる拡大に向けて

■ 今後も売上は拡大し、2018年に中国での車体シール部品の売上No.1となる見込み。

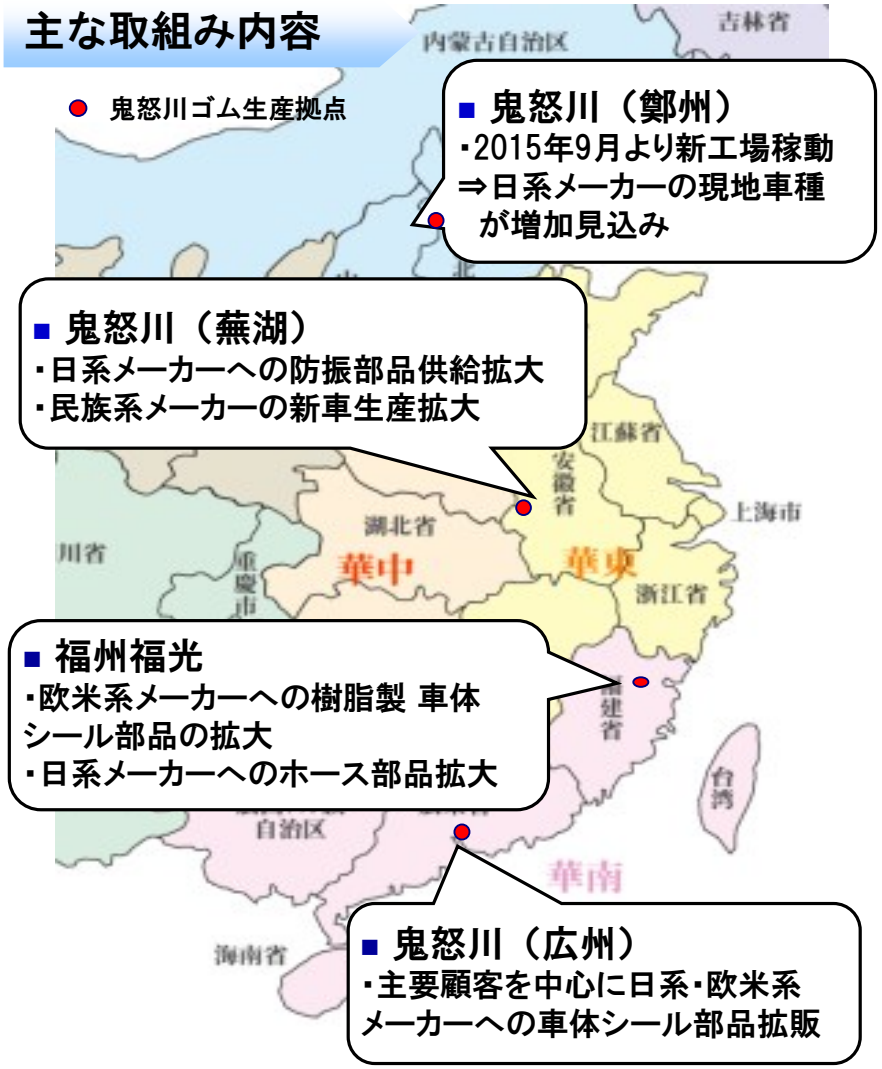
中国出荷台数(予測) *1



鬼怒川ゴム売上高予測（中国地区）



主な取組み内容



*1 参照：みずほ銀行産業調査資料より弊社作成

KINUGAWA

1. 2015年度第2四半期決算の状況

2. 主な活動と取組み状況

3. 2015年度の業績予想

2015年度　業績予測

- 2015年度予想は当初計画とおりの予定です。
- 対前年比、増収増益（売上；105%, 経常利益：108% ）

（単位：億円/未満四捨五入）

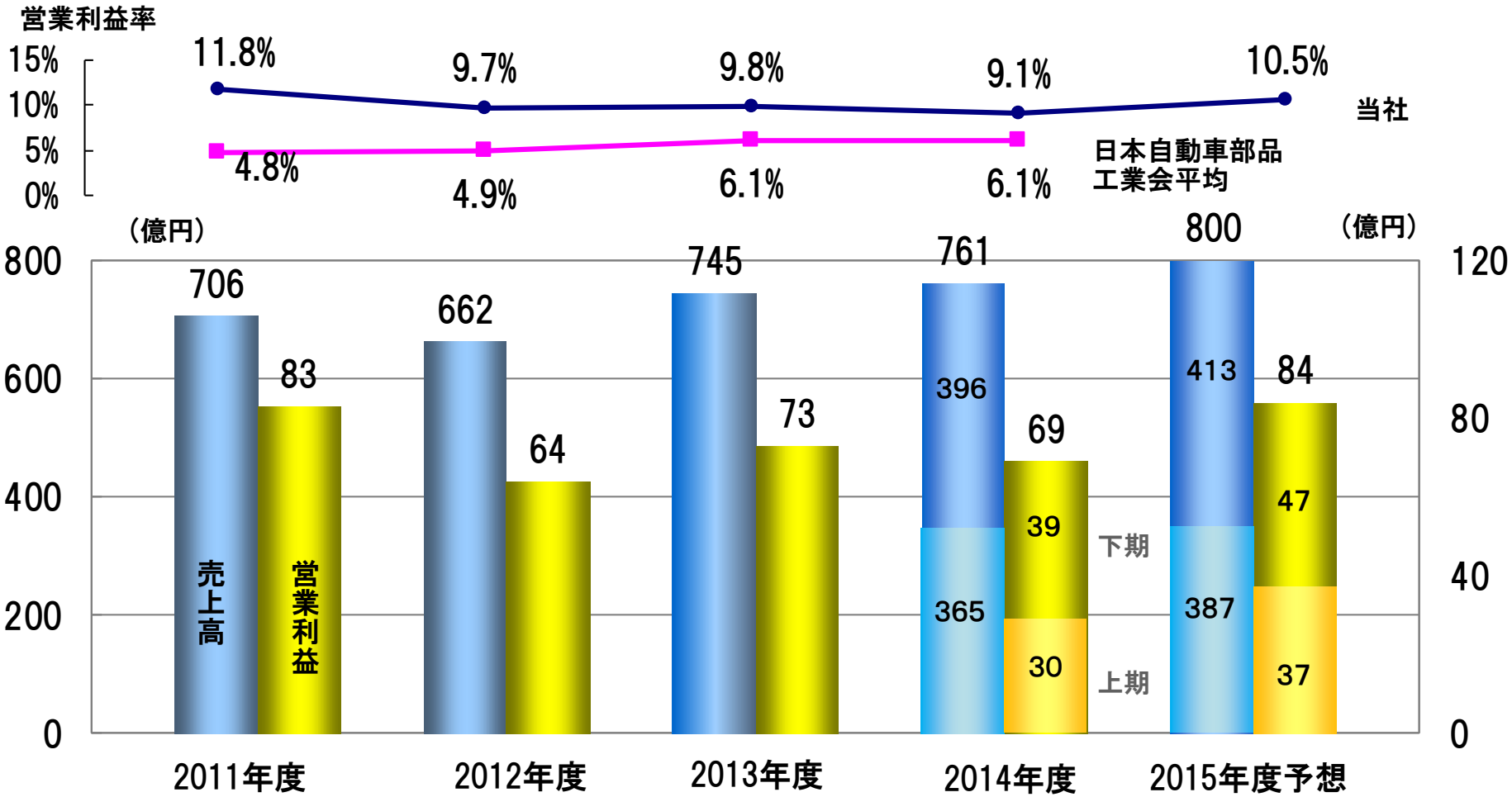
	2014年度 実績	2015年度 予想	増減率
売上高	761	800	(5.1%)
営業利益	69	84	(21.2%)
営業利益率	9.1%	10.5%	
経常利益	74	80	(8.4%)
経常利益率	9.7%	10.0%	
当期純利益	43	50	(16.6%)

※想定為替レート　US$　120円/$　人民元 19円/元

KINUGAWA

年間業績推移

■ 年間予想は当初計画とおり、売上800億円、営業利益84億円

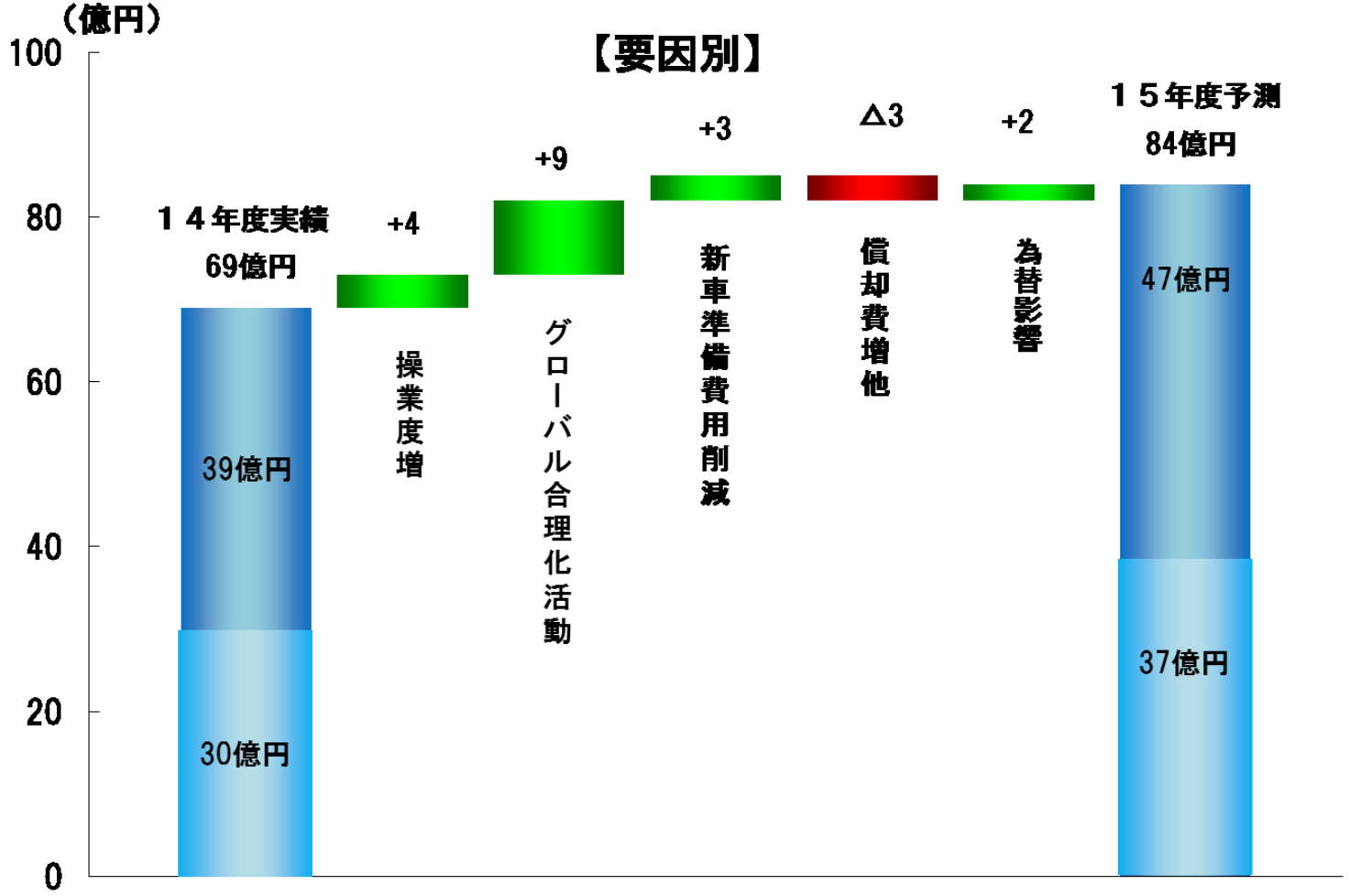


参照：日本自動車部品工業会資料より抜粋

KINUGAWA

営業利益変動予想（要因別）

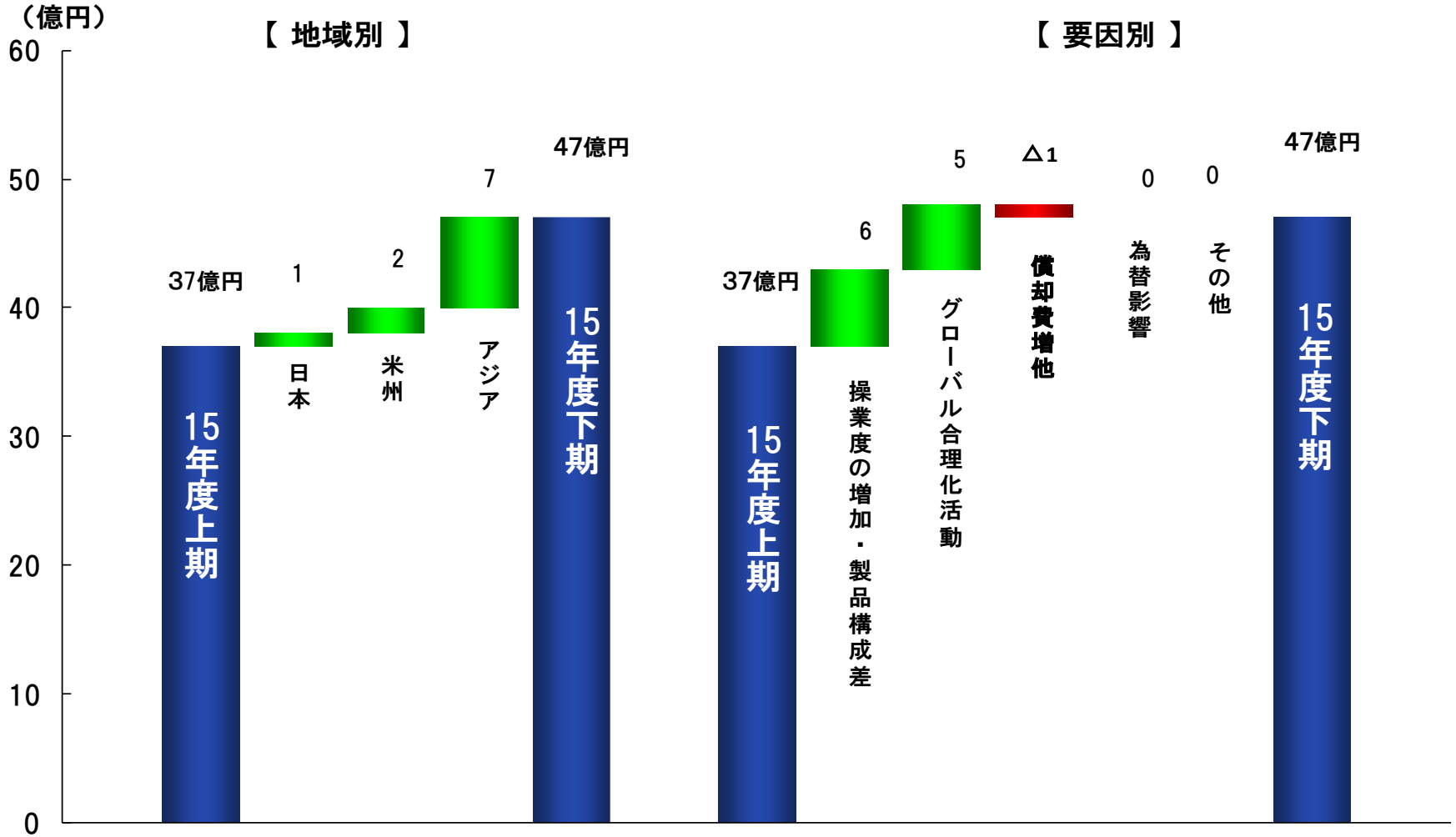
■ 米州、アジアでの操業度の増加及び生産性向上や資材・購入品の現地化の拡大等によるグローバル合理化活動により 15億円の増益を予想



KINUGAWA

2015年度 上期実績、下期予想比較（地域別、要因別）

- 15年度下期はアジアでの収益向上により増益の見込み
- 操業度の増加、グローバル合理化活動により10億円の増益の見込み



KINUGAWA

配当

① 期末配当は以下を予定しています
2016年3月期予想：第2四半期末 6円、期末 6円、合計12円

② 株主還元指標
DOE：株主資本配当率(*) は2～3%とし、
今後も会社業績に応じた適切な株主還元を継続致します

(*)=配当総額÷株主資本

	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度予想
当期純利益（百万円）	4,467	5,300	3,975	4,694	4,289	5,000
1株当たり当期純利益（円）	66.56	79.16	59.13	69.83	63.81	74.39
1株当たり配当金（円）	5.00	6.00	8.00	9.00	10.00	12.00
DOE；株主資本配当率	2.3	2.0	2.3	2.3	2.0	2.0以上

本書には、当社および/または当社グループに関連する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述が含まれています。これらは当社が現在入手している情報に基づく、本書作成時点における予測等を基礎として記載されています。また、これらの記述のためには、一定の前提（仮定）を使用しております。これらの記述または前提（仮定）は主観的なものであり、将来において不正確であることが判明したり、将来実現しない可能性があります。実際の業績は、今後様々な要因により業績予想と異なる結果となる可能性があります。このような事態の原因となりうる不確実性やリスクは多数ありますが、これらに関する追加情報については、当社の有価証券報告書、短信等開示書類、プレスリリース等をご参照ください。

本書は、情報提供を目的とするものであり、投資勧誘を目的としているものではありません。

本書に記載されている当社ないしは当社グループ以外の企業等にかかわる情報は、公開情報等から引用したものです。情報の正確性・適切性等について、当社は何らの検証を行っておらず、またこれを保証するものではありません。

ご照会等は、下記までお願いいたします。

■鬼怒川ゴム工業株式会社　グローバル管理部

電話：043-259-3164（経営企画チーム直通）

E-mail：kinugawa-ir@kinugawa-rubber.co.jp

■ホームページのご案内

URL：http://www.kinugawa-rubber.co.jp/index.html

《IR情報》http://www.kinugawa-rubber.co.jp/investor/

KINUGAWA